

事業紹介・事業報告

「第10回 JICE研究開発助成成果報告会」の報告



沼尻 恵子
情報・企画部
上席主任研究員

1. 第10回助成研究の成果報告会

JICEでは、住宅・社会資本整備に係わる先進的な研究・技術開発に対して助成を行い、より良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、研究開発を支援する助成制度を平成11年度より実施しており、平成21年度までの11年間で延べ133件の研究に対し助成を行っている。

その研究成果を社会へ還元する方策の一つとして、研究開発助成の成果報告会を開催しており、今年度で第10回目を迎えたところである。第10回成果報告会は、平成22年10月6日（水）にJICE会議室において開催し、平成20年度に実施した研究成果について報告（15研究）がなされ、会場からの活発な質疑があった。これらの研究の成果概要についてはJICEホームページの研究開発助成事業で掲載しているので、あわせてご覧頂きたい。

本成果報告会については、土木学会認定の継続教育(CPD)プログラムの認定を受け、公開にて実施している。外部からも45名の申し込みがあり、新たな技術への関心が寄せられたところである。



写真 成果報告会の会場の様子

表-1 成果報告された研究課題一覧（発表順：敬称略）

	研究課題名	研究者名
1	都冷房を主目的とした地中熱ヒートポンプシステム的设计法に関する実験的研究	西日本工業大学デザイン学部建築学科 教授 成田 樹昭
2	上空風による市街地居住空間の清涼化・清浄化機能に関する確率統計的評価に基づく都市の風通しの研究	東京大学生産技術研究所5部 教授 加藤 信介
3	高靱性セメント版を用いた木造住宅用の大地震被害軽減型・制振壁の開発	秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科 教授 山田 寛次
4	小型自律飛行ロボットと高精度GPS 技術を用いた災害状況の解析・計測に関する研究	早稲田大学理工学術院 総合研究所 教授 橋詰 匠
5	新しい都市ビジョンを実現するための先進的計画技術に関する研究	横浜国立大学大学院 工学研究院建築学コース 教授 高見沢 実
6	樹脂系接着剤を用いた既設鋼リベット橋の耐震性向上に関する技術開発	京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 教授 杉浦 邦征
7	トンネル火災時の煙挙動 CFD解析に基づく高機能避難行動シミュレータの開発	金沢大学理工研究域機械工学系 教授 川端 信義
8	鋼とコンクリートの境界部が腐食した鋼部材の構造劣化特性	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 助教 内藤 英樹
9	ユーザの視点からの歩道整備のための歩行空間センシング技術の研究	上智大学理工学部附情報理工学科 准教授 矢入 郁子
10	社会基盤整備における事業者の応答が市民の計画評価に与える影響の分析	東京理科大学理工学部 土木工学科 准教授 寺部 慎太郎
11	ロービジョン者に配慮した音と光を用いた歩行空間ユニバーサルデザインに関する研究	兵庫県立福祉のまちづくり研究所 研究第一グループ 研究第一グループ長 北川 博巳
12	都市域における水防災政策の定量的評価技術の開発	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 准教授 市川 温
13	豪雨災害における災害経験情報の集約化と共有化技術	九州工業大学大学院工学研究院 准教授 徳田 光弘
14	健全で安全な水環境を目指した雨天時都市排水の消毒技術の開発	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 講師 山下 尚之
15	効率的な生活再建支援のための被災世帯スクリーニングの枠組み-社会インフラの復旧・復興と被災世帯の生活再建の相互連関に着目して-	富士常葉大学社会環境学部 非常勤講師 高島 正典

2. 第12回助成研究の募集

平成22年度の研究開発助成の公募は、「応用研究課題」と「重点研究課題」のそれぞれについて、下表にて募集を行ったところである。公募期間は平成22年8月31日～平成22年10月31日で、91件の応募があった。

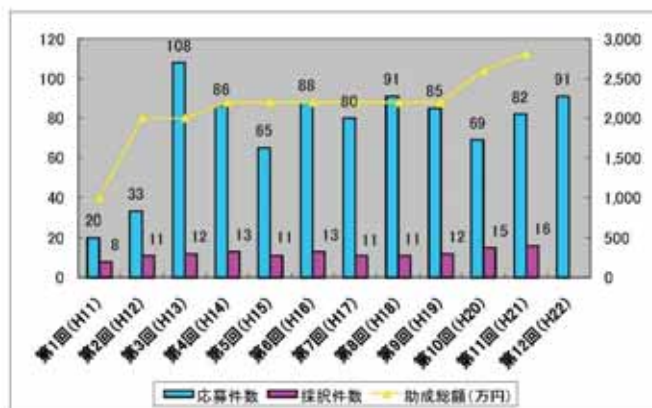


図-1 研究開発助成の実績

応募件数 91 件

表-2 研究開発助成の対象

応用 研究 課題	研究開発の成果が次の①～③のいずれかに該当する研究。		57
	①安全に安心して暮らせる国土の実現に寄与するもの。		41
	②人・もの・情報が効率的に通いあえる国土の実現に寄与するもの。		2
	③心豊かに暮らせる快適で美しい国土の実現に寄与するもの。		14
重点 研究 課題	研究開発の成果が次の④～⑩のいずれかに該当する研究。		34
	④水災害リスク分析に関する研究	気候変動の影響等による豪雨の頻発や少雨の長期化等外力の変化により、従前の水災害に対する安全度が棄損されることが予測されている。こうした変化に対して被害の極小化を図るための、水災害に関するリスクの分析・評価と適応策の検討に関する研究。例えば、浸水・漏水リスクの分析と評価、社会・経済に及ぼす影響を踏まえた適応策の研究など。	5
	⑤河川堤防の信頼性評価に関する研究	河川堤防の洪水（浸透、侵食、越水等）ならびに地震に対する信頼性評価に係わる研究。例えば、土堤の断面及び法線延長でみた場合の洪水に対する破壊確率、実洪水での現象を基にした破堤リスク分析に関する研究。地震後の土堤の変形量（止水機能）の評価に関する研究など。	6
	⑥道路空間の有効活用並びに道路ネットワークの最適化に向けた政策立案に寄与する研究	「道路空間の有効活用」とは、例えば、歩行者や多様な交通手段を考慮した道路構造のあり方や道路空間の再構築などを指し、「道路ネットワークの最適化」とは、例えば、道路の多様な効用を考慮した最適な道路ネットワークのあり方や有料道路の料金施策等既存ネットワークの有効活用などを指す。	11
	⑦都市の安全性の評価に関する研究	地震・火災等の自然災害に対して、都市の整備によってどのように都市の安全性が高まるのか、都市（街区単位）の安全性の評価方法（評価する視点を含む）に関する研究。 例えば、中心市街地や密集市街地の整備に関する安全性の評価方法の研究や官民連携等ハード・ソフトを含む手法による都市の整備に関する安全性の評価方法の研究など。	8
	⑧品質と価格のバランスがとれた調達政策に関する研究	技術力や社会ニーズの変化を踏まえ、これからの時代に適合する建設システム（特に発注者の責任の果たし方）に関する研究。 例えば、品質と価格のバランスがとれた調達のあり方や、そのための具体的制度・組織経営手法のあり方に関する研究など。	2
	⑨社会的課題の解決に資する技術開発マネジメントに関する研究	社会的技術のニーズとシーズの動向を把握し、技術開発と開発された技術の活用を有効に為すためのマネジメントに関する研究。 例えば、開発と普及の円滑化のためのマネジメント施策、技術振興策や、開発と普及の進行管理、支援に関する研究など。	0
⑩民間資金を活用した公共調達政策に関する研究	民間資金を活用した道路・河川等のインフラ整備の課題を整理し、インフラ整備を推進するための方策に関する研究。 例えば、インフラ整備における課題や制度の改善に関する研究や民間資金を活用したインフラ整備の方向に関する研究など。	2	